

期待される教育実践者の姿は？  
コメント

「おじさん」 的実践者から  
対話的実践者へ

神吉宇一

uichik1113@gmail.com

# 「おじさん」とは

- パターナリズムの象徴としての「おじさん」メタファー

※画像は特定の個人を指しているわけではなく、あくまでイメージです



パターンリスティックなふるまい、姿勢を持つ実践者  
所与のものや正解・正しさみたいなものがある、対話的でない

## マクロ

- ・ 公教育の変革を促す対話的視点の導入（木村）

## メゾ

- ・ 対話的な授業研究文化の継承（森）

## ミクロ

- ・ 対話を通じた新しい意味や価値創造の場のデザイン（三代）

日本語教育の制度の議論につながる

# 日本語教育の制度化

- 教育の成果主義、数値化
  - 「成果」を上げることによって実践として認められる
- 国内の体制整備を中心とした資格化
  - 「誰でもできる」わけではないことの支えになる
  - 社会的認知の向上につながる
- CEFRの影響によるCan-do化（できる化）
  - 「言語事項の習得」から脱却する契機になる

# 日本語教育の制度化



- 教育の成果主義、数値化
  - 学習内容の単純化、画一化、固定化
- 国内の体制整備を中心とした資格化
  - 静的な専門性への過度な注目、分断、商業化
- CEFRの影響によるCan-do化（できる化）
  - 「できない」や「条件付きできる」の価値低下





弱いロボット  
岡田 (2012)

# 政策・制度と対話性

## 制度設計を通じた意識の変容

- 政策立案や制度設計が意識変容につながる
- 人々の意識が変わることによって制度が変わっていく
  
- どう働きかけるのか



# 政策・制度の動態性

## 政策実施の動的性質

- street-level bureaucracy (Lipsky, 2010)
- 政策は常に実施の過程で変化させられる (Mazmanian & Sabatier, 1989)

## 現場から立ち上げる言語政策的視点

- エスノグラフィーをふまえて政策を策定することで、言語政策における支配的なパラダイムや一方的支配に対抗することができる (Canagarajah, 2006)
- エスノグラフィーによって政策実施者の「抵抗」事例を明らかにすることが可能 (Hornberger & Johnson, 2007)

# とりあえず求められる教育実践者像

- 真面目に不真面目にやる
- 骨抜きにする
- これでほんとにいいのかなあと考える
  
- 批判性
- unlearn



# 課題

- 脱パターンリズムは自己責任論やリバタリアニズムとなじみやすい

## 参考文献

1. 岡田美智男 (2012) 『弱いロボット』 医学書院
2. Canagarajah, S. (2006) Ethnographic methods in language policy. Ricento, T. (Ed.) *An Introduction to Language Policy: Theory and Method*. Malden, MA: Blackwell Publishing, 153-169.
3. Hornberger, N.H. & Johnson, D.C. (2007) Slicing the Onion Ethnographically: Layers and Spaces in Multilingual Language Education Policy and Practice. *TESOL Quarterly*, Vol.41, No.3, 509-532.
4. Lipsky, M. (2010) *Street-Level Bureaucracy 30th Anniversary Edition: Dilemmas of the Individual in Public Services*. New York, NY: Russel Sage Foundation.
5. Mazmanian, D.A. & Sabatier, P.A. (1989) *Implementation and Public Policy*. Lanham, MD: University Press of America.